（別添様式４）

令和４年度　学校評価実施報告書

学校名（　　嵯峨中　　学校）

教育目標
嵯峨･嵐山･広沢地域の豊かな自然と文化の中で、社会人基礎力 の育成を目指す

年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止を常に意識し、消毒・マスク着用・３密を避ける（ソーシャルディスタンスを保つ）などの新たな行動様式の制限された学校生活の中で、行事等の実施や活動の可否など難しい判断に迫られる場面が多数あった。これまで当たり前にできたことができなくなり、取組や事業の在り方を見直し模索していく中で、新たな形での取組を構築することにつながった。 ・学校教育目標の具現化に向けて、教職員が懸命に教育活動に当たっている状況である。自己評価アンケート結果（後期）から見ると、「失敗することを恐れず、高い目標を設定して挑戦させていくよう指導している」で９１．７％が肯定的な回答であった。自信を持って「よく当てはまる」と回答した教職員が７月結果と比べて 12 月結果では５５．６％と少し改善が見られた。先の見通しがなかなか持てない中で、これまでの学校行事や取組を手探りで生徒たちと一緒に行っていたことを考えると努力してきたと評価できる。 ・本校の教育活動の核となっている「嵯峨中パレード」「嵐山フィールドワーク」は新たな取組の方法を模索しながら実施することができた。「嵯峨中パレード」は感染対策として人数を制限し、活動を分割することで３年ぶりの地域巡行を実施することができた。３年生は、これまでの想いと実施できなかった２年間の想いから「再盛」というテーマを掲げ、各係・各パートで、精一杯の取組と発表をしてくれた。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、「嵐山植林育樹の日」の生徒の参加は見送る形となったが、２年生の「嵐山フィールドワーク」は国有林の嵐山へ入山し、地域の方と大学の先生 ２ 名を招いて嵐山の歴史や景観の保護活動等について学ぶことができた。地域との協働を通して「自己有用感」の向上と地域への愛情を育む取組として継続していきたい。 ・教職員自己評価では、「いじめ防止基本方針を理解し、組織的対応に努めている」とほとんどの教職員が回答しているが、いじめに関連する案件（いじめにつながる案件も含めて）は起こっており、子どもに寄り添った指導や支援が必要である。 ・「エスノート（振り返り手帳）を効果的に活用させるように指導している。」の質問に対して、否定的な回答が１１．１％もあり、エスノートを使用する目的と効果を今一度、共通理解を図る研修を行い、生徒や保護者から効果やメリットが見いだせるような指導につなげていく必要がある。 ・学力向上に関しては、各学年最後の学習確認プログラムの結果を見ると、全ての学年で全市平均を上回ったが、教科別に見ると、３年では英語、２年では理科が伸び悩んでいる。生徒たちにしっかりと学力をつけさせることは、学校としての責務であり、至上命題でもある。授業改善に力を入れていくことがまずはやるべきことであるが、進路保障も含めて、１・２年生から ３ 年間の学習に向かう姿勢からしっかりと見直し、やるべきことはしっかりやりきらせるような指導を継続していきたい。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 **・学校に対する支援は、様々な面で学校の応援をしたいとのご意見をいただいた。** **・新型コロナウイルス感染症対策のもとでの学校運営にご理解をいただいた。** **・様々な制限はあるものの地域の子どもたちの居場所となり、安心・安全に学校生活が過ごせるように努力してほしいと要望をいただいた。** **・中止を考えるのではなく、どのようにすればできるのかを考え、また感染症対策でスリム化されたり改善された良い面を今後の取組にも活かしてほしいとのご意見をいただいた。**

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年11月8日	学校運営協議会（書面審議）
最終評価	令和4年2月17日	学校運営協議会

（１）「確かな学力」の育成に向けて　『学力向上プラン』

重点目標

・生徒の活動を重視した授業改善と信頼性のある3観点評価の実施
・基盤的ツールとしての ICT 機器の活用
・家庭学習の習慣化とエスノートの活用

1. 週1回の教科会を授業時間内に組み込み、教科会の充実を図り、生徒の活動を重視した授業改善の交流を行う。また、3観点評価を行うための方法を研究する。
2. GIGAスクール構想の下、学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」を育てるために、ICT機器を活用した学習場面を意図的に設定していく。
3. 「振り返り力」向上をねらいとしたエスノート（フォーサイト手帳）の活用を、年間を通じて行う。
4. 学年会・教科会で学力向上に向けた議論ができるように、各教科および学習研究部で全国学力学習状況調査などの諸調査や定期テストなどのデータを分析し、課題やその改善方法等を検討するための機会を教科会や学年会などで定期的に設ける。
5. 各教科・領域において、新学習指導要領に沿った指導ができるように教材・教具の充実を図る。
6. A4 版ホワイトボードによる思考の見える化を全教科で進める。
7. 校内研究授業を年1回実施し、授業交流を通して指導力向上を目指し、授業改善を図っていく。
8. 生活のリズムを整え、落ち着いて1日のスタートを切るために、一年を通して10分間の朝読書に取り組ませる。
9. 授業に生かされる家庭学習の充実を図るため、“適切な質と量の宿題”の継続的な取り組みを行う。
10. 定期テスト前や長期休業期間を活用して、補充学習会を実施する。
11. 週末の課題提示により、個々の生徒の興味・関心に合わせた多様な取り組みを展開していく。
12. 通常の学級に在籍する特別な支援を要する生徒について、「個別の指導計画」「個の課題に応じた指導計画」を作成し、自律して社会参加できるための支援について保護者と共に計画し、個に応じた支援を意識し、実施していく。
13. 特別支援教育の共通理解を深め、指導に役立てるための研修会や事例研修を行う。
14. ユニバーサルデザインの観点から、学校全体の環境整備を進める。
15. 若手教員の育成・支援や指導力の向上、また若手教員と中堅教員との繋がりを深めて、互いに切磋琢磨できるような OJT を充実させる。

（取組結果を検証する）各種指標

・全国学力学習状況調査（3年生）の結果

・学習確認プログラム（全学年）の結果

・教職員自己評価（言語活動の充実、授業形態の工夫、特別支援教育への知識と実践）

・生徒自己評価（聞くことの姿勢、発表・書くことへの意欲・関心、家庭学習の習慣、エスノート活用）

・保護者アンケート（授業の工夫、家庭学習の習慣）

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

〇学校評価アンケート（後期）12月実施

・教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

創意工夫のある授業を行い、学びに向かう姿勢を高められるよう指導している	97.2%
生徒たちの「聞く」姿勢を高められるよう、意識して指導している。	100%
生徒たちの考えを様々な方法で表現させる活動を行う等、アウトプットを意識して指導している。	100%
生徒たちに、エスノートを効果的に利用させるよう指導している。	88.9%

・生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

自ら進んで学習に取り組んでいる。	79.9%
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞けている。（「聞く」姿勢）	97.5%
授業の内容は、よくわかる。	90.5%
家庭での学習に、自主的に取り組めている。	69.5%
エスノートを利用して、計画的に過ごしている。	45.4%

・保護者アンケート（そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

お子さんは、自ら進んで学習に取り組めていると思われますか。	71.9%
お子さんは、人の話をしっかりと聞くことが出来ていると思われますか。（「聞く」姿勢）	85.8%
学校では、わかりやすい授業が行われていると思われますか。	88.9%
お子さんは、家庭での自主学習に取り組めていると思われますか。	62.3%
お子さんは、エスノートを利用して、毎日の生活を過ごせていると思われますか。	51.6%

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

〇学習確認プログラム・ジョイントプログラム

授業・家庭学習および予習・復習シートの活用（自主学習・提出）を行うことで、学力向上を図っている。すべての学年、すべての教科で全市平均を上回る成果をあげている。1年生については、特に社会、理科で成果を上げている。2年生もPreStage3rdで大きく上回る成果を挙げることができた。3年生は継続して数学で成果を挙げている。次年度は授業改善に力を入れ、主体的・対話的で深い学びを意識し学びの質の向上へとつなげていきたい。

〇授業

学校評価アンケート結果から、授業での内容はわかる（わかりやすい授業）の項目では、生徒と保護者ともに約9割と高い結果が出ており、おおむね良好である。ただ、自学自習や自ら進んで学習するなどの項目にこれまで同様に課題が見られ大きな改善は見られていない。生徒たちや家庭での学習の習慣づくりに向けて、具体的な改善策が必要である。新型コロナウイルス感染拡大に伴う学級

閉鎖やオンライン学習の必要性もあり、GIGA スクール構想でのタブレット端末を用いた授業改善など積極的に進めているが、新しい授業の在り方を模索していく中で家庭学習にもつなげていきたい。

○特別支援教育

研修会やケース会議を行い、「個別の指導計画」の作成と保護者への周知も行っている。また昨年度より新設となったLD等通級教室の環境整備を通級担当が熱心に行っており、本校での入級生徒をケース会議、学年会、保護者面談等で慎重に判断して、その子に応じた手立てや取組を考えて指導を始めている。

○家庭学習

学校評価アンケート結果から、「家庭での学習に自主的に取り組んでいる」の項目では、生徒は約7割、保護者は約6強となっている。前期に比べて約6ポイント改善しているが、生徒やご家庭で計画的に学習をする習慣を構築するという点において課題があると思われる。

○エスノート（振り返り手帳）の利用

エスノートの導入以来、日々の生活の中で「時間を気にする」ようになり、「計画をたてること意識する」ようになっていることは評価できる。しかし、その活用については、学校評価アンケート結果から、生徒は約4割、保護者は約5割という結果であった。教職員の自己評価では、約8割強が指導しているとの認識している結果であったが、昨年度と同様に指導と成果が乖離している。今年度エスノートの研修の機会を改めて設けたが、次年度に向けて、活用方法等をさらに研修し、生徒たちが自主的に、意欲的にエスノートを活用できるようにしていきたい。

○ユニバーサルデザインの観点からの環境整備

これまで京都嵯峨学園（小中連携）の取組の一環として、教室内のホワイトボード、時計、掲示物、黒板、カーテン、廊下の壁、ごみ箱やリサイクルボックスの色など統一した規格に設定を行っている。特に特別支援教育と中1ギャップ解消には一定の効果があると思われる。今後も継続して取り組んでいきたい。

分析を踏まえた取組の改善

○学習確認プログラム等の結果

３学年とも少しずつ改善し、全教科で全市平均を上回る結果となった。予習シート→テスト→復習シートのサイクルで、予習シートや復習シートを有効に活用し、学力の定着につなげていきたい。さらに、中位から下位の生徒たちへの手立てを手厚くすることでさらに底上げを図っていきたい。日常の授業改善はもちろんであるが、教科会等での時間を有効に活用して取組改善を図っていきたい。

○学習活動

新型コロナウイルス感染防止のために、話し合い活動・グループワークが制限されていたが、数年前より順次配備したグループ活動のためのエスボードや全員配布のエスボード、タブレット端末を使用した新しい授業形態を模索し積極的に取り組むことができた。引き続き、「主体的・対話的で深い学び」につながるような授業改善に取り組んでいきたい。

	〇特別支援教育への理解と実践 **　支援の必要な生徒も各学年に在籍しているため、今後も引き続き研修会、ケース会議の時間を有効に活用して実施していく。** **〇エスノート（振り返り手帳）** **　今年度の結果を受けて、次年度の年度当初に改めて新転任者を含めて教職員の研修を行い、全学年ともに共通理解を図った上で取組を開始していきたい。**
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 **・「学ぶ意欲を高める丁寧な指導をしていただいている」「教育の授業形態を積極的に取り入れている」との評価をいただき、更なる学力向上に向けて期待をする。** **・各家庭でできることは、協力していきたい。** **・エスノート（振り返り手帳）の取組の評価が全体的に低いので、取組の主旨・目的を確認し、取組を抜本的に改善することが必要である。**

（２）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標 〇主体的に考え、行動できる生徒の育成 〇人権を尊重し、思いやりの心に富む生徒の育成 〇正義や公正を重んじる心、および、規範意識を持つ生徒の育成 〇よりよい社会の実現を目指す生徒の育成 〇地域を愛し、地域の環境や地域の伝統を大切にする心を持ち、地域に貢献できる生徒の育成 〇よりよい社会の実現を目指す生徒の育成 〇道徳的価値を理解することを通して内省し、多角的に考え、判断する能力の育成 〇考え、議論する道徳授業の実施
具体的な取組 ・道徳の時間をはじめ、あらゆる教育活動の場面において道徳教育を進めるという意識を高める。 ・生徒の実態に応じた授業のめあてを設定し、教科書を基盤とした年間指導計画を作成し、22 項目を網羅する。 ・エスや特別活動（伝統文化体験を含む）、他教科の授業とのカリキュラム・マネジメントを図り、指導内容および時期を計画・実施する。 ・主体的・対話的で深い学びを実現するために、授業の形態・発問の工夫・教材の提示方法を工夫する。 ・授業中の発言・ワークシートから生徒の人間的な成長のふり返りや道徳性の育みを見とり、評価し、学年末の通知票にて提示する。 ・研究授業を行い、小学校での道徳の学習を発展的に中学校で活用できるよう検討する。 ・公開授業を実施し、保護者に周知する機会を設ける。
（取組結果を検証する）各種指標 ・Q−U調査及びクラスマネジメントシート ・道徳の生徒自己評価（学期ごと） ・教職員自己評価（保護者対応、生徒とのつながり、地域とのつながり） ・生徒自己評価（公共の精神、地域行事への参加、規範意識、自己有用感） ・保護者アンケート（生徒の規範意識）

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

○Q−U調査及びクラスマネジメントシート

全てのクラスで、おおむねの生徒が「学校に通うのは楽しい」と回答している。

（学級ごとの課題や個別事象について、学年会や生徒指導委員会等で共有し、取組を進めている。）

○学校評価アンケート（後期）12月実施

・教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

生徒たちに、学校や社会のルールを守らせるよう指導している。	100%
失敗することを恐れず、高い目標を設定して挑戦させるよう指導している。	91.7%
生徒たちの間違った言動や行動に対して、その場で指摘し、きちんと指導している。	97.2%
「一生懸命はカッコいい」と目指す生徒の育成に向けて教育実践をしている。	97.3%
地域と共にある学校づくりを意識して、特色ある教育活動を行っている。	94.5%
HPや学年・学級通信などで、積極的に情報の発信や提供をしている。	83.3%
生徒たちに、将来の夢や希望を持てるような指導（キャリア教育）をしている。	100%

・生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

学校や社会のルールを守れている。	97.9%
困難なことでも、失敗を恐れず挑戦している。	77.0%
みんなで協力してやり遂げたとき、うれしいと感じることがある。	93.3%
日々の生活の中で、「一生懸命はカッコいい」を実践している。	78.8%
地域や社会をよくするために、どうすべきかを考えたり、行動しようとしている。	69.9%
将来の夢や希望を持っている。	85.0%

・保護者アンケート（そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

お子さんは、学校や社会のルールを守って行動していると思われますか。	96.9%
お子さんは、何事も失敗を恐れず、挑戦しようとしていると思われますか。	68.9%
お子さんは、周りの人と協力して、課題を解決しようとしていると思われますか。	87.0%
お子さんは、日々の生活に対して、一生懸命に取り組めていると思われますか。	85.7%
HPや学年・学級通信など、情報の発信や提供ができていると思われますか。	83.9%
お子さんは、自分の夢や目標を持てるような活動ができていると思われますか。	74.5%

分析を踏まえた取組の改善

○学校生活について

教職員自己評価では、ほぼ9割以上の評価となっているものの、生徒アンケートでは、「失敗を恐れず挑戦」「地域や社会に貢献」「一生懸命はカッコいい」「将来の夢や希望が持てる」などで6～8割程度であった。昨年度より数値は改善しているものの、本校の特色ある取組（行事）等がコロナ禍で本来の形で行うことができず、それらを実感できない生徒も多いと感じている。前年度よりも少し改善がみられるのは、嵯峨中パレードなど昨年度中止になった行事が、本来の形ではないものの実施できたことが大きい。学校生活の中で達成感や成功体験を積み重ね、将来を見通した進路や生き方に対する指

	導につなげていきたい。 **〇地域とのつながりについて** **　本校が長年にわたって、「地域とともにある学校」を目指し、地域との連携をはじめ、地域行事にも積極的に関わってきたことで、生徒の意識も高まっていると考えている。また、「働き方改革」や「部活動ガイドライン」遵守に伴い、部活動の時間も減り、地域や家庭での時間が増えてきたことも影響していると考える。ただ、昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、地域との連携した取り組みや地域行事が減っており、実感が持てていないのが現状である。できる形で参加することで少しでも意識向上につなげていきたい。** **〇豊かな心の育成について** **　これまでと同様に、自己有用感・自尊感情を高める教育活動の実践や楽しく安心して過ごせるための学級経営に取りくみ、間違った言動や行動・態度を見過ごさない生徒指導を行っていく。おおむね保護者の賛同や理解も得られていると思われる。**
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 **　これまで地域とともに取り組んできた本校の特色ある取組（行事等）がなかなか本来の形で実施できていないが、嵯峨中パレードは「再盛」というスローガンを掲げて開催することができ、喜んでいただいている。長い年月をかけて築き上げてきた地域連携や地域の伝統を継承して、地域の中で活躍する中学生たちの姿を見たいとの話をいただいた。**

（３）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 〇生徒の健康と生活実態を把握し、健康な生活が送れる習慣を育てる。 〇生徒一人一人が自らの心身の健康や安全について理解し、生涯を通して健康や安全の保持・増進しようとする態度や**感染症対策**意欲を培う。
具体的な取組 ・学校教育目標である「社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力・地域貢献）」の育成を目標に、教科、道徳、総合の時間、学校行事において、また地域とのつながりも大切にし、豊かな心と健やかな体の育成に努める。 ・生活習慣の乱れ、ストレスや不安感の高まっている現状を踏まえ、こころの健康を含め自らの健康を維持し、改善することが出来るように日々の観察と教育相談等の機会を使って指導、助言する。 ・性教育学活を行う。（生命誕生や男女交際、性感染症に関する知識を深めさせる。） ・防煙教室、薬物乱用防止教育を行う。（その有害性・危険性について認識を深めさせ、好奇心や人からの勧め等に関して、適切に対応できる態度を養わせる。） ・保健委員会活動の「換気点検」「生活習慣見直し習慣」**「ランチョンマット点検」**の実施や朝学活での「健康観察**（タブレット導入）**」で生徒の健康把握に努める。 ・生徒及び保護者が、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるように、積極的に食教育に取り組む。**（保健委員会が実施）**
（取組結果を検証する）各種指標 ・生徒自己評価（基本的生活習慣、あいさつ、思いやり、食事・休養） ・給食の喫食調査および生活習慣についてのアンケート（生活委員会・保健委員会）

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

・教職員自己評価（あいさつ、思いやり、食事・休養）

・生徒アンケート（あいさつ、思いやり、食事・休養）

・保護者アンケート（あいさつ、思いやり、食事・休養）

・生活習慣についてのアンケート（保健委員会）後期（１１～１２月）実施

・給食の申込数調査

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

〇学校評価アンケート（後期）12月実施

・教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

生徒たちに、場に応じたあいさつの習慣を身につけさせるよう指導している。	97.2%
生徒たちが、互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるよう指導している。	97.3%
食事や休養など、自分の身体のことに気を付けて生活ができるよう指導している。	97.3%

・生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

自分から気持ちの良いあいさつをしている。	86.7%
周りの人を思いやるような言動や行動をしている。	91.9%
食事や休養など、自分の身体のことに気を付けて毎日の生活を送っている	85.5%

・保護者アンケート（そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

お子さんは、気持ちの良いあいさつや返事ができていると思われますか。	84.5%
お子さんは、周りの人を大切にし、仲良く過ごせていると思われますか。	95.7%
お子さんは、食事や休養など、自分の身体のことに気を付けていると思われますか。	79.4%

〇生活習慣のアンケート（保健委員会）後期（9月）実施

・いつも何時頃に就寝しますか。（無回答0%）

午後10時までに就寝。	12.3%
午後10時から午後11時の間に就寝。	28.4%
午後11時から午前0時の間に就寝。	29.7%
午前0時から午前1時の間に就寝。	18.9%
午後1時以降に就寝。	10.8%

・いつも何時頃に起床していますか。（無回答6.6%）

午前7時までには起床。	61.2%
午前7時から午前7時30分の間に起床。	30.7%
午前7時30分から午前8時の間に起床。	8.1%
午前8時以降に起床。	0%

・朝食は、毎日食べていますか。（無回答0%）

毎日食べている。	81.3%
食べている日の方が多い。	12.3%
食べていない日の方が多い。	0%
食べていない。	6.4%

	〇給食の申込数調査 **約4割の生徒が、給食を申し込んでいる。** **保健委員会が行っている生活習慣（特に起床時間、就寝時間）のアンケートから、夜遅くまで起きている生徒、朝遅くまで寝ている生徒の割合が、学年進行とともに多くなっている。特に深夜まで起きていて（午前1時以降に就寝が10．8%）、朝が起きられない生徒や不調を訴える生徒もいるため、家庭とも連携して改善を求めていきたい。** **朝食の調査では、約8割強の生徒が毎日食べていると回答しているが、朝食を食べていないと回答する生徒も6.4%おり、学校生活での学習や体調に影響が出ることも含めて、食育の観点からも話をすることで改善を求めていきたい。** **本校の給食申込率は4割と高く、中学生が摂取すべきエネルギーや必要な栄養素をしっかりと摂ることが出来ている生徒が多い。** **アンケートの結果からもあいさつの励行や他者を思いやる言動・行動ができる生徒が多い。お互いを思いやる心の育成や、安心安全に通える学校づくりに活かしていきたい。** **新型コロナウイルス感染症対策で行っている「マスクの着用」「うがい・手洗いの励行」「常時換気」等を、継続的に指導・実施している。また健康観察・検温も毎日実践することで、常に自分の健康状態を把握している生徒が多くなっている。**
	分析を踏まえた取組の改善 **新型コロナウイルス感染防止やマスク着用の徹底を行う中で、これまでのようにしっかりとあいさつをするように指導することが難しくなっていると思われる。自分からできている生徒も多いが、こちらから声掛けや取組をしないとできなくなっている傾向がある。本校がこれまで大切にしていたあいさつの取組をもう一度見直していきたい。** **引き続き、生活習慣の改善に向けた取組（早寝・早起き・朝ごはんの実践）を生徒会や保健委員会の活動を中心に継続して取り組み、食育に係る部分も継続して取り組んでいきたい。** **安心安全に過ごせる学校づくりに向けて、教職員が日々の様子をしっかり見取り、わずかな兆候やサインなどの見逃さないようにしていく。**
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 **あいさつがしっかりできている嵯峨中生にお褒めの言葉をいただいている。** **小学校から中学生になって、あいさつなど、できていることが向上していくことを望んでいる。** **これまで同様に、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて、可能な限りの対策を講じ、安心・安全な学校生活が送れるようにしていただきたい。各家庭でも、家庭でできることは協力を呼び掛けていきたいとのご意見をいただいた。**

（４）学校独自の取組

重点目標 京都嵯峨学園（3小1中）としての教育活動の充実を目指す。
具体的な取組 ①新学習指導要領に対応した教育課程の編成と実施（授業改善とカリキュラムマネジメント） ・各教科における「つながり」を意識した授業の工夫・改善 ・家庭での自学自習の習慣化（振り返りの重視とエスノートの活用）

・困りのある生徒の実態に応じた合理的配慮の実施（教育環境整備の重視）
・「特別の教科 道徳」の実践 （重点内容項目… B 礼儀、C 伝統と文化）
・アウトプットの重視（自身の考えを多様な方法で表現させる活動）
・諸調査結果を活かした授業の改善を図る。
・妥当性、信頼性に基づいた学習評価を実施（評価ソフトの活用、説明責任）する。
・課題解決に向けた補充学習を実施する。
②伝統文化教育の推進
・伝統文化教育推進委員会を設置して推進を図る。
・既存の取組の関連付けと整理を図る。
・指定事業を実施する。
③小中一貫（京都嵯峨学園）教育活動の充実
・小中一貫教育推進体制の強化を図る。
・9年間を見通したカリキュラム・マネジメント（小学校の学習内容の理解と関連の検討）
・地域を含めた小中連携による授業・行事等の取組（「京都嵯峨学園」としての取組）を推進する。

（取組結果を検証する）各種指標
・教職員自己評価（学習指導、生活指導、自身の意識改革、地域との連携、協働）
・生徒自己評価（自学自習、アウトプット、エスノート）
・保護者アンケート（京都嵯峨学園に対する理解）
・学校運営協議会の評価 他

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果
・教職員自己評価（学習指導、生活指導、自身の意識改革、地域連携・協働）
・生徒アンケート（自学自習、アウトプット、地域貢献）
・保護者アンケート（自学自習、アウトプット、地域連携、京都嵯峨学園に対する理解）
・学校運営協議会の評価　他

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

〇学校評価アンケート（後期）12月実施

・教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

「つながり」を意識した授業への工夫や授業改善を行っている。	**97.2%**
目標やめあてを提示するなど、わかりやすい授業となるような工夫や取組をしている。	**100%**
思考・判断・表現力等を高められるよう、意識して指導している。	**100%**
生徒たちの考えを様々の方法で表現させる活動を行うなど、アウトプットを意識して指導している。	**100%**
家庭学習で、自学自習の力を身に付けさせるよう指導している。	**97.2%**
地域と共にある学校づくりを意識して、特色ある教育活動を行っている。	**94.5%**

・生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

授業で、自分の考えが広がったり、深まっていると思うことがある。	**77.2%**
授業で、自分の考えを持ち、しっかり話したり。書いたりしている。	**85.2%**
家庭での学習に、自主的に取り組めている。	**69.5%**
地域や社会を良くするために、どうすべきかを考えたり、行動しようとしている。	**69.9%**

・保護者アンケート（そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

お子さんの思考が広がったり、深まったりしていると思われますか。	80.5%
お子さんは、自分の思いや考えを表現することができていると思われますか。	73.4%
お子さんは、家庭での自主学習に取り組めていると思われますか。	62.3%
ご家庭で、お子さんと地域や社会のことについて、話をすることがありますか。	78.8%
京都嵯峨学園の名称を、保護者や地域に知っていただけていると思われますか。	79.3%
京都嵯峨学園の教育活動について、情報の発信や提供ができていると思われますか。	78.6%
京都嵯峨学園が、3小1中の連携した教育活動として取り組めていると思われますか。	76.8%

○京都嵯峨学園としての活動

嵯峨中パレードは感染防止対策を講じたうえで、規模を縮小してではあるが実施することができた。三小交流すもう大会は中止であったが、嵐山フィールドワークは地域の方々の支援もいただき実施することができた。

○小中合同教科、分掌・係別会議

夏の合同研修とともに、主任研修会も実施することができた。これまでできなかった合同授業研修をも形式を工夫し行うことができた。

○ホームページ

校務分掌の中に、記録・広報係として各学年に設置し、学年の取組を発信をする形をとっているが、アンケート結果を見るとまだまだ積極的な発信が必要であると考えている。

○京都嵯峨学園の認知度

今年度は、京都嵯峨学園だよりを 6 回発行したが、アンケート結果に見る認知度はこれまでと大きく変化していない。今後も取り組みを保護者や地域にも積極的に伝えるようにしていく。

分析を踏まえた取組の改善

小中連携事業の一環として 12 月に行っている、中学校体験授業・部活動見学は、感染症対策を講じて実施することができたが、小学生の見学の時間の確保など、小中で連携して進めていく。

嵐山フィールドワークは、地域の方と大学の先生2名をお招きして行っているが、日程調整も含めて事前学習や事後学習など計画的に実施していきたい。

京都嵯峨学園の認知度を高めるため、小中学校の教頭が「京都嵯峨学園だより」を発行している。今年度と同様に積極的に発信していく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

これまで新型コロナウイルス感染拡大に伴い、地域も学校もほとんどの行事を中止したり、縮小してきたが、これから実施できることが徐々に増えてくると思うので、できる形をを考えて、より良いものにしていきましょうと確認することができた。

（５）教職員の働き方改革について

重点目標
新しい時代の教育に向けた、持続可能な学校指導体制の構築と教職員の意識改革

具体的な取組

①勤務時間を意識した働き方の推進

・職員朝礼や職員会議で、日々の退勤時間を早くするように伝える。

・庶務事務システムを利用した勤務時間の把握及びデータ分析及び活用する。

・職員健康日（原則、毎週水曜日）については、午後6時30分までに退校する。

・ストレスチェックを実施する。

・超過勤務が多い教職員には、積極的に学校健康医による面談を実施する。

・PTA、地域の方々、学生ボランティア等の活用を図る。

・スクールカウンセラー、総合育成支援員、学校司書、ALT等の連携を図る。

・留守番電話の設定をする。（午後7時頃～午前8時頃）

・学校閉鎖日についての理解と協力を得る。

②「学校働き方改革宣言」の周知徹底

・保護者への啓発を行い、理解と協力を得る。

・学校運営協議会で説明し、ご意見をいただくとともに理解を得る。

・学校行事の精選と見直しをする。

・業務の分散化する。

③部活動の適切な実施

・部活動ガイドラインの徹底を図る。

・朝練習の廃止（令和2年度より）

・外部コーチ、部活動支援員、合同部活動、保護者引率の活用を図る。

・週1回、ノー部活動日を実施する。（会議を集中させて行う日として設定）

④振替等の適切な運用

・代休、割変の確実な取得を図る。

⑤ハラスメントの防止

・教職員面談を実施する。

・風通しのよい職場づくりを推進する。

⑥育児、介護を伴う教職員への配慮

・部活動終了、完全下校時間を勤務時間内に設定し、超過勤務をしないで勤務できる条件を整える。

・特休等が取得しやすい職場環境をつくる。

（取組結果を検証する）各種指標

・出退勤管理システムでの毎月の時間外勤務時間の確認

・教職員自己評価（意識改革、地域との連携、協働）

・保護者アンケート（働き方改革に関する理解）

・学校運営協議会の評価　他

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

・出退勤管理システムでの毎月の時間外勤務時間の確認

・教職員自己評価（意識改革、地域との連携、協働）

・保護者アンケート（働き方改革に関する理解）

・学校運営協議会の評価　他

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

○毎月の時間外勤務時間が、45時間以上および80時間以上をを超えた教職員数

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
80時間以上	0名	0名	0名	0名	0名	
45時間以上	17名	13名	10名	14名	15名	

○教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）後期（12月）

ライフワークバランスを意識した働き方になるよう、働き方改革に努めている。	88.9%

○保護者の意識、理解

留守番電話の設定や夏季休業中での学校閉鎖日（年休取得促進日）等などを行い、大きな苦情もなく理解を得られている。

○「働き方改革」推進のための取組

部活動の朝練習廃止、練習時間の短縮（平日は年間を通じて16時45分終了・16時55分完全下校）、育児・介護等をしておられる教職員全員が退勤時刻で退校できる条件整備を行っている。

週2日の職員健康日を告知し、生徒指導や行事等の取組繁忙時以外は意識して取り組んでもらえるようにお願いしている。休日の職員室での執務をしないために、セット解除をしないことを告知し、部活動時に必要なカギ（保健室<AED・緊急時使用する PHS 常備>および中校舎の扉など）を準備して、休日は部活動指導のみとお願いしている。

○新型コロナウイルス感染拡大に伴う消毒作業の負担軽減の取組

全教職員で消毒を行うために、消毒開始時間を勤務時間内に実施できるように、部活動終了および完全下校時刻を勤務時間内におさめるように取り組んでいる。

分析を踏まえた取組の改善

電話対応終了時刻を18時30分、セット時刻を19時に設定して、退勤できるように新年度をスタートさせ、学年黒板には18時までに帰宅できるような働き方にするように、日頃の仕事のやり方を見直していくように呼びかけているが、実際には20時前後に全員が退勤することになっている。

また、自分の勤務時間を出退勤管理システムで管理することで、以前に比べライフワークバランスを意識して仕事の見直しを図る教職員が増えてきている。また、総合育成支援員、SC、学校司書、ALT、部活動の外部コーチに加え、校務支援員・観察実験アシスタント・部活動支援員等の協力を得ることで、教職員の負担軽減につながっている。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

社会全体で、「働き方改革」が進んでおり、学校現場でも積極的に進めていく必要があることに理解を示していただいている。

（６）いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標

いじめの未然防止及び早期発見、いじめに対する迅速かつ適切な対応のための取組を組織的に行う。

具体的な取組
「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
（取組結果を検証する）各種指標 ①学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。 ②保護者や学校運営協議会等に、学校いじめ防止基本方針や学校の取組を説明・周知している。 ③教職員の自己評価 「ひとりひとりの生徒を徹底的に大切にし、楽しい学校生活を送れるようにしている。」 「認め合い、励まし合い、支え合うことができるような働きかけをしている。」 「学校いじめ防止等基本方針の内容を理解して、組織的対応に努めている。」等 ④生徒の自己評価 「学校生活は楽しく過ごせているか。」「自分には良いところがあると思いますか。」 「いじめはどんな理由があってもいけないことと思いますか。」 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」等 ⑤保護者への学校評価アンケート 「学校や学級は「安心・安全」に過ごせるところになっていますか。」 「他者を大切し、仲良く過ごせていると思いますか。」 「悩みや困りごとに対して、学校で気軽に相談できると思われますか。」等

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 **①教職員の自己評価** **「ひとりひとりの生徒を大切にし、楽しい学校生活を送れるよう指導している。」** **「生徒たちが、互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるよう指導している。」** **「学校いじめ防止等基本方針の内容を理解して、組織的対応に努めている。」等** **②生徒アンケート** **「学校生活は楽しく過ごせている。」** **「困ったことや悩んでいることを、先生や友達に相談している。」** **③保護者アンケート** **「お子さんにとって、学校は「安心・安全」に過ごせる場所だと思われますか。」** **「お子さんは、周りの人を大切にし、仲良く過ごせていると思われますか。」** **「お子さんは、悩みや困りごとに対して、学校で相談できていると思われますか。」等**	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 **①「未然防止」「早期発見・事案対処」「学校基本方針に基づく各種取組」などの役割を明確化し、自らの存在及び活動内容が生徒及び保護者に認識してもらえる取組を進め、全校集会の際にいじめ対策組織の教職員が生徒の前で取組を説明する等を行った。教職員が、いじめに関する情報を学年会や補導部会、生徒指導対策委員会、いじめ・不登校対策委員会等に報告し、組織的に情報を共有して対応策を協議している。あわせて教職員が、いじめに係る情報を抱え込むことは、法律の規定に違反することも確認している。** **②学校いじめ防止基本方針については、年度当初保護者に周知するとともに、学校ホームページに掲載している。学校の取り組みについては、学級・学年だよりや学校ホームページ等を通して、説明・紹介・周知を行っている。職員会議では、毎回、学年や各クラスの状況を報告するとともに、いじめに係**

る情報共有をし、組織的な指導体制で取り組んでいる。

③教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）後期（12月）

ひとりひとりの生徒を大切にし、楽しい学校生活を送れるよう指導している。	97.2%
生徒たちが、互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるよう指導している。	97.3%
学校いじめ防止等基本方針の内容を理解して、組織的対応に努めている。	100%

④生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）後期（12月）

学校生活は楽しく過ごせている。	94.8%
困ったことや悩んでいることを、先生や友達に相談している。	74.2%

⑤保護者アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）後期（１２月）

お子さんにとって、学校は「安心・安全」に過ごせる場所だと思われますか。	98.5%
お子さんは、周りの人を大切にし、仲良く過ごせていると思われますか。	95.7%
お子さんは、悩みや困りごとに対して、学校で相談できていると思われますか。	69.7%

日常の生徒が発信するサインやちょっとした変化を見逃さないように意識して、いじめの早期発見に努めている。また、いじめのアンケート等を実施するとともに、保護者懇談や教育相談等を通して、生徒の悩みや保護者の不安解消に努めるとともに、定期的にいじめ・不登校対策委員会を実施している。養護教諭やスクールカウンセラーとも連携し、多角的に情報を共有している。

いじめアンケートや教育相談などを有効に活用し、日常生活でのサインや変化はもちろんであるが、生徒の声に対してすぐに反応し、動きだせることが大切である。日頃から教職員が、ひとりひとりの生徒を徹底的に大切にし、安心安全に楽しい学校生活を送れるようにしたいと願っている。生徒のアンケートでは、「学校生活は楽しく過ごせている。」の問いに94.8%が肯定的な回答であった。保護者アンケートでは、「お子さんが、悩みや困りごとに対して、学校で相談できていると思われますか。」の問いに対して、肯定的な回答が69.7%となっており、前期に比べると少し改善傾向であるが、まだまだ数値としては低く、組織的な体制が求められる。コロナ禍の影響もあると思われるが、生徒や保護者が相談しやすい雰囲気や環境を整えることが必要不可欠であり、生徒に寄り添うとともに、小さな声をしっかりと聴き取り、心のこもった指導をしていかなければならないと考えられる。保護者の方々や地域の方々の学校への信頼・期待度は高く、全校指導体制で取り組んでいく必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

まず学級担任が、生徒をよく見ること。一人ひとりが発信するサインや変化を見逃さずに、丁寧な指導や支援を徹底していく。短期間のうちに解消したいじめ事案についても、学校が組織（学年会・いじめ対策委員会）として把握し（いじめの認知）解決に向けた取り組みを継続して行う。道徳の授業や、学級活動、生徒会活動等様々な場面で、いじめの問題や人への思いやりについて考え、議論する活動等を推進していく。未然に防ぐための組織的な関わりを大切にした指導体制を構築していく。

いじめが起こった場合には、被害者生徒に寄り添い、「絶対守る」「必ず解決する」という学校の姿勢を示し、その生徒のことを最優先に考えていく。また、丁寧な聴き取りをするとともにクラス内・学年だけではなく、定期的に行っているいじめ・不登校対策委員会で共有するとともに、市教委（生徒指導課・学校指導課）や関係機関（児童相談所等）への正確かつ速やかな連絡・連携、対応の協議に努めていく。さらに、クラスマネジメントシートや Q-U調査等の分析を通して、学級集団の把握と個々への対応策の検討・実践をしていく。

日々の欠席状況（遅刻、早退含む）や保健室の来室状況（回数、内容）を教職員で共有し、気になる生徒の早期発見に努めていくとともに、不登校生徒への組織的な対応（学年会・不登校対策委員会での共有・検討）をしていく。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 **コロナ禍が続く中、できる限りの教育活動を行っていただき、ありがたいとのご意見をいただいている。今後も、地域の子どもたちのために、教職員の方々の力を尽くして支えていただきたいとのご要望をいただいた。保護者や地域、各諸団体としても、それぞれができることを全力で支援・協力をさせてもらうとのご意見をいただいた。**